

会 員
理 事 各 位

平成20年 9月13日

用具小委員会
担当理事 葛西 順一
ルール・審判委員会
委員長 長谷川敦司

ルール変更の件

1. 国際卓球連盟 (ITTF) の決定

国際卓球連盟は2008年2月27日開催のITTF総会において揮発性有機溶剤 (VOC) を含む接着剤等、及び公認されたラバーの後加工を禁止するとしていたが、2008年9月1日から施行するルール (2.4.7) として、8月15日付けで国際卓球連盟のホームページに掲載した。(別紙参照)

2. 日本卓球協会 (JTTA) の決定

日本卓球協会は国際卓球連盟の上記ルール改定の通知を受け、2008年10月1日以降に開催される全ての大会において、新に、本会未公認ではあるがITTF用具委員会から指摘を受けた補助剤(ブースター) についても使用を一切禁止とする。

尚、Enezを用いた検査は従来通り実施する。競技者は事前にEnezによるボランティアラケット検査を受け、赤ランプが点灯した場合にはそのラケットは使用できない。審判長や関係者の指導を受けて、試合ではグリーンランプが点灯するラケットを使用する。

3. 上記ルールの実施にあたり、競技者は再度以下の点に留意する。

- 1) 新しいラバーを使用する場合、包装材からラバーを取り出してから、ラバーに残っているかも知れない揮発性のある有機溶剤 (VOC) を除去するために72時間以上、空気にふれさせた後に、ラケットにラバーを接着させること。
- 2) ラバーを接着させた後、ラケットケース等密閉した容器にラケットを連続して長時間入れていた場合は、その時間と同程度の時間、ラケットをその容器から外に出してから、プレーに臨むこと。
- 3) 競技者は予めスペアラケットを用意し不測の事態に備えるようにすること。

※ ルール改正の一部抜粋です。

第1章 基本ルール

1.4 ラケット (新設、修正)

1.4.3 ラケットの打球に使用する面は、接着剤を含む全体の厚さが 2.0 mmを超えないツブを外向きにしたラバーか、接着剤を含む全体の厚さが 4.0 mm以下のツブを内向きまたは外向きにしたサンドイッチラバー(ソフトラバー)で覆われていなければならない。

解説 接着剤の使用に関して、時にはラバーの不均一なものが出現してきている現状に対し、許容量を示した。類似の箇所も改正した。

1.4.7 ラケット本体を覆うラバーは、その摩擦特性、外見、色、構造、表面等の競技性能に、物理的、化学的その他の処理による変化、修正を与えることなしに、JTTA あるいは ITTF に公認された状態で使用されなければならない。

解説 揮発性有機溶剤使用禁止に伴う変更。また揮発性有機溶剤を含んでいなくてもラバーの均一性、および公認時の規格に変化を与えるための処理を禁止する改定。これは接着補助剤(ブースター)等を用い、JTTA、ITTF が公認した時と異なる状態にすることを目的とした使用を、完全に禁止することを意味する。1.4.3の厚さの許容量改正もその一部である。

大阪卓球協会

ITTF用具委員会委員長 オッド・グスタフセンからの通知

背景

広州で決定された基本ルール2.4.7.は2008年9月1日より実施する。

2.4.7

ラケット本体を覆うラバーは、ITTF公認後、その摩擦特性、外見、色、構造、表面等の競技性能に物理的、化学的にその他の処理による変化、修正をしてはならない。

これは、接着補助剤（ブースター）（チューナー、強化剤、改良剤など）の使用を完全に禁止することを意味する。

接着補助剤の使用目的は、従来何かを変えるか、何かを変えようとするところにある。それ故、害がないとか、ITTFで公認されるべきだとか、VC（揮発性化合物）は含まれていないとか主張する者もいるが、それが正しいと信じる理由（根拠）はほとんどない。

皆さんにはこの接着補助剤に対して懐疑的になって頂きたい。と言うのは、これは一般的に健康に悪い物であり、中には毒物（poison）を含んでいることもある。

我々のテストによれば、補助剤はスポンジだけに通常塗って使われるが、ラバー本体からスポンジだけが分離した形で影響を受けるわけではない。（検査の際、接着補助剤がスポンジについている場合には、ラバーからスポンジだけを取って検査をすることが出来ない物もある。）

接着補助剤の使用は、手が汚れ時間やコストがかかり、不健康で、今ではスピンやスピードを得るため方法としては違法であり、大会の検査では違反としての赤ランプが出るかもしれない。

スピンやスピードの追求のためには、別のもっと良い方法がある。

注意点

選手には、クリーンなラケットを使用する責任があり、これは（VC）揮発性化合物を含まない正しい厚みのラバーで覆われたラケットを使用する責任があります。

新しいラバーは、接着剤でラケットに貼る前に少なくとも72時間はビニールパッケージから外に出して空気にさらしてください。水を主成分とする接着剤がPSAシート（感圧シート）しか使用することができません。選手は常にスペアラケットを持つようにすること。

VC（揮発性化合物）のテストは大会でEnezを使って行う。

この装置は、極微量の溶剤も検出することができ、溶剤が多過ぎる場合には赤ランプが点灯します。更に、接着補助剤に対してより敏感な新しいバージョンの機器が投入される予定である。大会によっては、より感度のよいRAEと呼ばれるバックアップ装置もある。

厚さの上限（4.00mm）検査は、より正確に測定できる機器が利用できるため、以前よりも厳しくなるであろう。

ITTFテクニカル・リーフレットのT-4には、ラバーの厚みの限度に関して次のように述べてある。すなわち、「ラケットを覆うラバーの打球面のいかなる部分においても4.00ミリを超えてはならない」クリーンなスポーツの為に我々は皆仕事をしているので、皆さんには今まで以上にゲームを楽しんで頂けることを願っている。

以上